

令和2年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（ 明徳 幼稚園）

教育目標

心豊かに充実した生活を送ることのできる子どもの育成
～主体的に生き生きと遊ぶ子どもをめざして～

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>今年度も自然環境を生かした子どもの育ちを見とり明らかにしながら、環境構成を工夫したり、教師の援助を見直したりしてきた。自然と関わりながら感じたり考えたりしたことを言葉や様々な形で豊かに表現する子どもの育ちが見られた。</p> <p>次年度は更に様々な工夫を重ね、より豊かな育ちへつなげていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・今年度は、新型コロナウィルス感染症による休園期間で地域の自然を生かした活動が中止になってしまったが、保育のなかで様々な工夫をされていることが感じられた。次年度は、もっと力になれることがあればと思う。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	11月20日	学校運営協議会
最終評価	3月17日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- エピソードや研究保育を通して子どもたちの姿を捉え、育ちに着目しながら協議をする。
- 昨年度に引き続き、園内の自然環境を生かした豊かな教育活動ができるよう、教材研究や環境構成について工夫する。
- 子どもの育ちを“資質・能力の3つの柱”的視点からも見取っていく。
- 週案の作成・反省・評価によるP D C Aサイクルの確立。

（取組結果を検証する）各種指標

- 記録、事例研究による子どもの変容、週案の反省・評価
- アンケート項目「子どもは、自分でしたい遊びを見つけて楽しんでいる」「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」

中間評価

自己評価	各種指標結果
	○ 園内研究では、論文作成もあったので、自然との関わりと科学する心の育ちと関連させながら焦点を絞った事例の分析ができた。
	○ アンケート項目、「子どもは自分からしたい遊びを見つけて夢中になって遊んでいる」「子どもは自然とかかわりながら遊ぶことが好きである。」に関しては、どちらも、各学年「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、100%になるという高い数値であった。
学校関係者評価	分析（成果と課題）
	・分散登園の期間から自然環境に親しめるよう、子ども自ら興味をもってかかわるように計画的に環境構成してきた。そのことが、子どもが興味をもち自ら遊びを見つけられる姿へつながった。アンケートの結果からもそのことが伺える。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	・今後も、これから季節に応じた環境や、子どもの育ちにつながるような環境構成や援助を見直していきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	・事例研究　　・アンケート項目　　・週案の評価
学校関係者による意見・支援策	学校関係者による意見・支援策
	・今年度は、感染防止対策の消毒や様々な面で、通常通りでなく大変であるが、アンケートの結果が良好であるので、幼稚園の教育への理解があるのではないか。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	・事例研究については日々の保育の振り返りの機会を生かして取り組んできた。
	・アンケートでは、幼稚園は子どもが夢中になって遊ぶ環境を整えたり援助したりしている」「幼稚園は自然環境を大切にし、保育に生かしている。」「子どもは自然とかかわりながら遊ぶことが好きである。」等の保育の充実や自然との関わりの関心度などの項目では「そう思う」「大体そう思う」を合わせると100%になるなど肯定的な数値となっていた。
自己評価	・週案での評価を次週に生かすようにしているが、保育の中での感染症対策についてはぎりぎりまで話し合うことがあり、予定通りにならないこともあった。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	・保育後の振り返りの時間を今後も有効に生かしたい。 ・保育に関わる教員、勤務時間の異なる教員間の連携や話し合いの時間を十分に確保することが課題である。
自己評価	分析を踏まえた取組の改善
	・さらに教育を充実させていくために、計画的に取り組み、新たな環境構成を検討するなど工夫や改善を重ねていきたい。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策をながら工夫して園運営していくことを引き続きお願いしたい。
-----------------------------	---

(2) 幼小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣の小学校への保育公開、小学校の授業参観・研究授業の参観 ○ 保幼小連携会議への参加 ○ 読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育公開の参加実績・小学校の授業参観、研究授業参観の参加回数。 ○保幼小連携会議への参加回数と協議内容。 ○交流事業の打ち合わせの実施や実践結果。 ○アンケート項目「読書ノート “親子で絵本” は利用している」「親子での絵本の読み聞かせは大切であると感じる」 <ul style="list-style-type: none"> ・「親子で絵本！」の活用実績。
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナ感染防止対策により、校種間の参観が無理な状況になっている。通常なら参観で子どもの育ちについて共有できた部分もあるが、仕方がない。 ・小学校の教員と研修する機会が持てたのは良かった。 ・アンケート項目「親子での絵本の読み聞かせは大切だと思う。」については、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると100%になるが、「読書ノート “親子で絵本” は利用している」の項目は、年少は61%、年長は52%とかなり低い数値になる。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせは大切だと思うが、読書ノート「親子で絵本」の活用と結びついていないことがわかる。読書ノートに足跡を残す意義を伝える必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会などの機会を利用して、読書ノートの活用を促したいと考える。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施されれば保幼小連携会議への参加、協議内容。 ・「親子で絵本！」の活用実績。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は幼小の交流は難しくなるが、できることがあれば進めていってほしい。 ・「親子で絵本」の活用がいつも課題になる。もっと簡単な形式に変えることはできないのだろうか。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・今年度は保幼小連絡会はなかったが、電話連絡や各種文書、小学校の教員と交流についての話し合い、園を参観してもらうことなど、できることを実践してきた。	
・読書ノートの活用は、アンケートの数値などを見る限り、微増というところである。	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校の協力を得て、ビデオレターによる交流や小学校見学など、感染防止を最優先しながらもできる範囲で子どもたちへの就学への期待やイメージを持たせることができた。・読み聞かせの大切さを感じる保護者は100%であるが、読書ノートの利用はあまり伸びていないので改善の必要がある。
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・感染防止が優先になるが、その中でも連携できることを増やしていきたい。・読書ノートの利用は引き続き促していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校とビデオレターでの交流や見学など、コロナ禍で少しでも小学校に触れる機会が持てたことは良かったのではないか。次年度は給食交流もできればよいのだが。・読書ノートは、様式をもう少し手軽に記入できるようなものにならないのだろうか。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組	
○指導計画を見直し、安心・安定して預かり保育に参加し、色々な遊びを楽しめるよう配慮、工夫する	
○長時間利用児の気持ちを十分に受け止め配慮する。	
○教育時間内と預かり保育時間の子どもたちの姿を担任、担当教員で密に連絡し合いながら、担当教員の態勢を整えながら、子どもとのかかわり方を考え見直していく。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
○預かり保育参加人数	
○預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。	
○アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など	

中間評価

各種指標結果	
・預かり保育に関しては、感染防止の観点から、新2号以外は利用人数の上限を設定せざるを得ない。よって、当初の指標による結果分析が難しくなった。	
ただ、参加している子どもは喜んでいる。就労の保護者と共に、リフレッシュ利用も再開している。	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none">・感染防止対策により、1号認定の利用人数を毎月調整する必要がある。
自己評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・前月提出の予定表による利用人数の把握と調整は今後も必要であると考えている。

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・預かり保育の利用人数と感染症対策の両立
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・就労する保護者だけでなく、リフレッシュ利用の再開は保護者にとって良いと思うが、感染症対策との両立は大変であると思われる。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	・預かり保育の利用人数を毎月の予定表で把握し、感染症対策上やむを得ない場合は、1号認定の利用の調整が必要であった。 ・人数が多く、個別支援をする子どもの参加もあり、担当教員の調整が必要であった。
自己評価	分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題 ・感染症対を考慮した人数と場所の調整、安心、安定して遊べるための担当教員の調整、活動内容の見直しが必要である。 分析を踏まえた取組の改善 ・引き続き、感染症対策を利用人数の調整が必要になると予想される。 ・就労支援やそれ以外でも長時間の利用は、今年度よりも拡大していくようPRしていくたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・就労支援の預かり保育は以前はなかったが、これからますますそのような役割が必要な社会になってくることが予想される。力になれることがあればと思う。

(4) 子育ての支援に関して

	具体的な取組 ○子育て支援クラス教育相談のボランティアスタッフの質の向上。 ○未就園児の保護者への幼稚園教育の発信。 ○地域との連携を子育て支援にも生かす。
	(取組結果を検証する) 各種指標 ○子育て支援の取り組みの回数や参加人数、教育相談件数。 ○保護者の意見。

中間評価

	各種指標結果 ・未就園児クラスが6月から再開したが分散登園であったため、一人当たりの利用回数は例年の半分になっている。10月より全員登園に切り替えた。 ・登録者数は、昨年度に比べてたまご組もひよこ組も減少している。
自	分析(成果と課題)

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児クラスについて、さらなるPRを検討する必要がある。 参加している保護者は子育ての相談ができると有効であると感じている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に本園の子育て支援としての役割を周知できるよう、方法を検討していきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の取り組みの回数や登録者数。 保護者の意見。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ポスターを貼るなど、例年と変わらないが他にも協力できることがあればしていきたい。

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の取り組みの曜日を見直した。 感染症対策を考慮し、グループ分けや日数を考えた。
	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策から分散登園にしていた期間があるので、今年度は実施回数が多くても一人一人の参加回数が相対的に少なくなっている。次年度は登録者数と実施回数を検討したい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> たまご組はできるだけ園行事と重ならないようにしたい。ひよこ組もできるだけ回数を増やしたい。 小規模保育施設との連携は、今年度は進まなかつたが、引き続き模索していきたい。 地域にアピールする方法を検討したい。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の保護者に幼稚園の良さをアピールできる方法を共に検討していきたい。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会「どんぐりーず」による園行事運営を見直し、有効活用する。 PTA、おやじの会との行事については、保護者の実態や負担も鑑み、見直しを図る。 関係者評価を園運営に生かす。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との交流の内容や回数。運営協議会理事、PTA、地域の方の意見。 アンケート項目「学校運営協議会「どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」「学校運営協議会「どんぐりーず」に子どもたちも親しみをもっている。」など

中間評価

各種指標結果	
・アンケート項目は、行事の実施が変更になったので、指標にできなかった。	
自己評価	分析（成果と課題） ・保護者の就労の増加や感染防止のため、学校運営協議会どんぐりー、PTAおやじの会などの行事は感染防止の観点から縮小せざるを得なかった。しかし、感染防止対策をとりながら形態をえて実施できたことがよかったです。 分析を踏まえた取組の改善 ・今後も、感染防止対策を講じながら、今できるやり方で協力してもらえるようにしたい。 （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・感染防止対策を講じながら行ったと取り組みについては、アンケート項目を検討して問うよう入れていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・今年度の様々なPTAや地域との活動は難しいと思われる。協力できることがあればしていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・アンケートで感染症対策をしながらの園運営という項目では、「そう思う」「大体そう思う」で100%となるなど肯定的な意見がみられた。 ・PTA活動でも、形態を変えた実施の仕方が高く評価されていた。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・今年度はおやじの会との連携による行事がほとんどできていなかった。 分析を踏まえた取組の改善 ・次年度は、PTA活動やおやじの会とは年度当初よりできることを考えていきたい。これから園児数や保護者の就労状況を鑑み、持続可能な組織運営を検討していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・PTAやおやじの会など、以前のような活動は難しくなっている。保護者の負担なく意義のある活動としてできることを検討していってほしい。力になれることがあれば教えてほしい。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	
○教職員の業務内容・勤務時間を意識し、改善点を明らかにし、今年度配置された校務支援員を有効活用しながら、働き方改革を推進する。	
具体的な取組	
	○校務支援員が有効に活用できるように見通しをもって保育計画をする。 ○会議の精選・効率化。行事の内容や業務の分担の見直しと効率化。超過勤務の短縮。電話対応時間

<p>を18時までとする。</p> <p>水曜日をノーカンボーデーに設定し、実現する。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標

- ・校務支援員の活用により改善できた業務内容や教職員の勤務時間の実態把握。年休取得率。

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員による新学期準備で担任業務の軽減 ・教材や絵本の整理、用具の移動なども校務支援員に任せることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の年休取得日数が昨年度より増えた。 ・消毒作業の手が増えて助かった。
学校関係者評価	分析(成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の活用として、担任業務が軽減できた。しかし、2学期が始まると、校務支援員に依頼する業務の選別が計画的にできずにいたことがあった。それにより超過勤務時間が伸びることもあった。今後はより有効に活用できるようにしたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育計画をしっかりと立て、校務支援員に依頼する業務の選別ができるようにしていきたい。
	(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の超過勤務時間 ・年休取得

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した)各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員に依頼する業務の選別は教頭を中心にして実施し、以前よりは計画的にできるようになってきた。担任や職員の業務が軽減されている。
	分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・行事前には、感染症対策を検討するなど、運営面では例年通りにいかないことも多く、打ち合わせの時間や回数が多くなっていた。その分、超過勤務が伸びることもあった。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果を踏まえ、校務支援員をさらに有効に活用できるようにしていきたい。 ・教員も超過勤務の時間や退勤時刻を意識しながら効率的に業務に当たれるように、もっと意識改革をしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・業務が多い中、消毒作業もあり大変だと思うが、校務支援員という制度を有効に活用していただきたい。